

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI登戸教室

	チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	法令順守は勿論のこと、建築基準法に基づき用途変更を行い、十分なスペースを確保している。集団クラスで利用児童が多い時には、運動量を確保できるように工夫している。	
	2 職員の配置数は適切である	加配加算を採用しているため、常時指導員は3名以上の体制となっている。安全に配慮を行い、人員を配置している。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	利用児童が見通しを持ちながら活動することが出来るように、1日の予定を掲示している。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	清潔で利用者が心地よく過ごせることが出来るように、毎日清掃を行っている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	毎日、始業時と終業時にミーティングを行い、共有事項に漏れがないように情報を共有している。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	保護者との関わりの中で、ご意見やご意向を確認し、業務改善につなげられるように取り組んでいる。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	自己評価で受けた意見を職員間で共有し、利用者及び保護者のニーズを確認している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		現在第三者による外部評価は行っていないが、必要に応じ検討していく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	内部研修の他、外部研修にも参加し、全員周知・把握に努め、資質の底上げをはかり、療育支援に繋げている。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	面談やフィードバック時の聞き取り等を行い、ニーズや課題を客観的に分析した上で作成が出来るように日々取り組んでいる。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	標準化されたアセスメントツールをもとに適応行動の状況把握につなげている。初回、半年以降、1年の期間で情緒面や運動面のアセスメントシートを作成している。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	職員間でのミーティング等を定期的に行い、支援内容を検討して、児童一人ひとりのサービス計画に沿って、基本活動(自立支援・日常生活の充実のための活動等)を複数合わせて取り組んでいる。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	児童発達支援計画に沿った支援が出来るように日々ミーティングや共有の時間をとっている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	児発管と指導員全員で話し合い、プログラムの立案を行っている。	
15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	職員間でのミーティングや共有を通して固定化しないように工夫している。		

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI登戸教室

関係機関や保護者との連携	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成している	当事業所は個別クラスと集団クラスが設けられているため、契約時に適性を見極め各々のクラス設定を行っている。児童の成長度合いに応じ、クラス変更の必要がある場合には児発管、指導員、保護者、子どもの意見を踏まえて行っている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	始業前のミーティングにて共有し、取り組んでいる。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	支援終了後に必ず振り返りミーティングを行い、気づいた点や改善点を確認し、記録している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	日々の支援に関して記録をとり、支援の検証・改善につなげるように取り組んでいる。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	定期的(4~6ヶ月ごと)に保護者と面談を行っている。それに合わせ、児発管、指導員でミーティングを行い計画の見直しの必要性を判断している。	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	参画の要請があった場合には積極的に参画している。主に児発管が参加する。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	直接の連携は行っていないが、保護者からの要望に応じる形で、情報の共有など連携できる体制は整えている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		当事業所には、医療的ケアが必要な児童は通所していないが、必要が生じた場合には連携できる体制を整えていく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		当事業所には、医療的ケアが必要な児童は通所していないが、必要が生じた場合には連携できる体制を整えていく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	保護者からの依頼に応じる形で、療育内容報告書を作成したり、電話での情報共有を行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	保護者からの依頼に応じる形で、就学支援シートの提出など、情報共有を行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	必要に応じて助言を受けており、連携もしている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		現在は限られた営業時間の中で実施するのは難しく、実施していない。また保護者からも要望がないため、今後必要が生じれば検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	多摩区協議会にオンラインにて参加するなど時間を作り交流をはかっている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	面談やフィードバック時にその都度児童の状況等を確認し、職員間で共有を行っている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	プログラムとしては実施していないが、家庭での必要性に応じて、面談などの際に個別に伝えている。	

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI登戸教室

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	運営規定の内容や利用者負担額等については、基本的には契約時に説明を行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	定期的(4~6ヶ月ごと)に保護者の方と面談を行い、ご説明した上で支援内容の同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	面談時やフィードバック時に、場面や状況に応じて必要な助言や支援を行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		父母の会はないが、療育前後にドア前で待機している際に、各自の必要に応じて保護者同士が自主的に関わりをもっている。要望があれば、必要に応じて検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	相談窓口を契約時に案内しているほか、対面・電話ともに随時相談の対応をしている。また内容により、日や場所を改めての相談支援なども実施している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	動画アプリ(インスタグラム等)を通して活動に取り組んでいる様子をお伝えしている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	個人情報が含まれる書類は鍵付き書庫の中に保管し、処分時はシュレッダーにかけている。PC等からのアクセスについては、セキュリティソフトを導入し対応している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	場面や状況等に応じて言葉だけではなく、ジェスチャー等も活用しながら行っている。	
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		現在特にしていないため、今後必要に応じ検討していく。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	契約時に説明を行っている。不明点等都度相談を受けた場合には、個別に対応している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	年2回(6月と11月)に実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	契約時に確認した上で、スタッフ間で情報の共有をしている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	当事業所では食物の提供をしていないが、年に数回市販の菓子を配布することがあるため、契約時に保護者に確認し、お渡しの際も食物アレルギー等配慮事項がある児童は、保護者の確認のもと開封するよう指導している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	その都度記録し、全職員共有するとともに、今後の対応策を話し合い実践している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	社内全教室共通のテキストや事例集などを用いて研修を行い、虐待防止の意識を高めている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	組織的に決定しており、子どもや保護者へは契約時に必ず説明し、了承を得ている。今現在、当事業所において拘束等は行われていない。	

〇この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI登戸教室

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	16	0	0	0	とても広くきれいに整理されている。	引き続き、整理整頓や清掃等を行い、室内の清潔感を維持してまいります。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	15	0	0	1		
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	14	0	0	2		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	16	0	0	0	キレイだと思う。	引き続き、整理整頓や清掃等を行い、室内の清潔感を維持してまいります。
適切な支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	15	0	1	0	子どものことをよく見て下さっていて、今何が必要なのかをとてもよく考えて下さっている。	引き続き、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析しながら、児童発達支援計画を作成してまいります。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	14	0	1	1		
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	14	1	1	0		
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか					月ごとに色々な種類の運動を行っている。	引き続き、色々な種類の運動を行う機会を設けられるよう、プログラムを考案・実施してまいります。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	3	2	6	5	幼稚園に通っていることもあり、療育の場において交流をあまり求めてはいない。	必要性がある場合には、その都度検討してまいります。
保護者への 説明等	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	16	0	0	0	契約時に説明があった。	引き続き、丁寧な説明を心掛けながら、教室運営に努めてまいります。
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	15	0	1	0	契約時に説明があった。	引き続き、丁寧な説明を心掛けながら、教室運営に努めてまいります。
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	5	1	6	4		
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	15	1	0	0	お迎えのフィードバックの際に、その日の様子をとても詳しく分かりやすく教えて下さっている。	引き続き、日頃からお子様の様子や状況を保護者様に伝えてまいります。
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	12	2	1	1	専門的な目線から日常生活のアドバイスがいただけ参考になっている。	引き続き、丁寧な説明を心掛けながら、教室運営に努めてまいります。
15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	2	0	7	7	保護者同士の連携はあまり必要性を感じていないので、現状で満足している。	必要性がある場合には、その都度検討してまいります。	

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI登戸教室

	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	12	0	0	4		
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	14	2	0	0		
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	11	1	1	3		
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	14	0	0	2		
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	14	0	2	0		
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	14	0	0	2		
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	15	1	0	0	毎月イベント週間があったり、子どもが楽しめる工夫がされていてとても良いと思う。	引き続き、子どもが通所を楽しみになるような教室づくりに取り組んでまいります。
	23	事業所の支援に満足しているか	16	0	0	0	毎回、丁寧にフィードバックをしてくださるので安心して通うことが出来ています。	引き続き、お子様や保護者様が安心して通うことが出来る教室づくりに取り組んでまいります。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI登戸教室

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	法令順守は勿論のこと、建築基準法に基づき用途変更を行い、十分なスペースを確保している。集団クラスで利用児童が多い時には、運動量を確保できるように工夫している。	
	2	職員の配置数は適切である	加配加算を採用しているので、常時指導員は3名以上の体制となっている。安全に配慮を行い、人員を配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	建築基準法に基づき、バリアフリー化の配慮を行っているが、完全にバリアフリーではない。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	個別支援計画に基づき、日々の療育の前に指導員全員でミーティングを行っている。また、終了後にも振り返りを行い、次回の療育に繋げる対策を行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	保護者向け評価表は毎年実施し、計画的に改善を行っている。必要に応じ、保護者の方へ直接説明や改善内容をお伝えし、その内容を職員間で共有している。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	毎年HPで公表している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		現在第三者による外部評価は行っていないが、必要に応じて検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	内部研修の他、外部研修にも参加し、全員周知・把握に努め、療育支援に繋げている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	面談やフィードバック時に聞き取りを行い、ニーズや課題を確認している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	適応行動の状況は日々のミーティングで確認している。標準化されたアセスメントシートを使用し、必要に応じ確認している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	全職員で定期的に会議を行い、児童の様子も鑑みてプログラムを立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	職員間でのミーティングや共有を通して固定化しないように工夫している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	当事業所は平日と休日ともに開所しており、サービス提供は平日と休日、特段変わりがいないため、基本同じ内容で実施している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	当事業所は個別クラスと集団クラスが設けられているため、契約時に適性を見極め、クラス設定を行っている。児童の成長度合いに応じ、年度替わりのクラス変更時には職員だけでなく、保護者や児童の意見も取り入れて行っている。	
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	始業前のミーティングにて共有し、取り組んでいる。		

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI登戸教室

関係機関や保護者との連携	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	支援終了後に必ず毎日打ち合わせの時間を確保し、1日の振り返りミーティングの中で、気づいた点や改善点洗い出している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	日々の支援に関して記録をとり、支援の検証・改善につなげるよう取り組んでいる。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	定期的(4~6ヶ月ごと)に保護者の方と面談を行っている。それに合わせ、児発管、指導員でミーティングを行い計画の見直しの必要性を判断している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	児童一人ひとりのサービス計画に沿って、基本活動(自立支援・日常生活の充実のための活動等)を複数合わせて行っている。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	参画の要請があった場合には積極的に参画している。主に児発管が参加する。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	当事業所は送迎がないこともあり、学校との情報共有は行っていない。その代わりに、保護者から間接的に学校情報をもらうことがあるので、今後、必要に応じて学校との連携を検討していきたい。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		当事業所には医療的ケアの必要な児童が通所していないが、必要が生じた場合には主治医との連絡体制を整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	現在は就学前の各園との情報共有等は行っていないが、保護者の依頼のもと、必要があれば情報共有をできる体制が整っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	現在障害福祉サービス事業所等へ移行する児童はいないが、必要が生じた場合には、資料を提供できる体制が整っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	必要に応じて助言を受けており、連携も行っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		現在は限られた営業時間の中で実施するのは難しく実施していない。また保護者からも要望がないため、今後必要が生じれば検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	多摩区協議会にオンラインにて参加するなど時間を作り交流をはかっている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	毎回の支援終了後に、保護者とのフィードバックの時間を設け、学校や家庭での様子を伺いながら、支援の様子と合わせて、状況や課題を共通認識している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	プログラムとしては実施していないが、家庭での必要性に応じて、面談などの際に個別に伝えている。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	運営規定の内容や利用者負担額等については基本的に契約時に説明を行っている。質問をいただいたら都度お答えしている。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI登戸教室

保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	面談時やフィードバック時に、場面や状況に応じて必要な助言や支援を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		父母の会はないが、療育前後にドア前で待機している際に、各自の必要に応じて保護者同士が自主的に関わりをもっている。要望があれば、必要に応じて検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	契約時に苦情の連絡方法を伝えている。また日頃から、苦情にまで至らない要望等の聞き取りを行い、職員間で共有・検討し、必要に応じて対応・対策している。	今後要望があれば、意見箱等の設置を検討していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	動画アプリ(インスタグラム等)を通して活動に取り組んでいる様子をお伝えし	
	35	個人情報に十分注意している	個人情報が含まれる書類は鍵付き書庫の中に保管し、処分時はシュレッダーにかけている。PC等からのアクセスについては、セキュリティソフトを導入し対応している。	
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	場面や状況に応じて言葉だけでなく、ジェスチャー等も活用しながら行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		現在特にしていないため、今後必要に応じ検討していく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	契約時に説明を行っている。不明点等都度相談を受けた場合には、個別に対応している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	年2回(6月と11月)に実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	社内全教室共通のテキストや事例集などを用いて研修を行い、虐待防止の意識を高めている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	組織的に決定しており、子どもや保護者へは契約時に必ず説明し、了承を得ている。今現在、当事業所において拘束等は行われていない。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	当事業所では食物の提供をしていないが、年に数回市販の菓子を配布することがあるため、契約時に保護者に確認し、お渡しの際も食物アレルギー等配慮事項がある児童は、保護者の確認のもと開封するよう指導している。	
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	その都度記録し、全職員共有するとともに、今後の対応策を話し合い実践している。		

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI登戸教室

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	18	2	0	0	限られたスペースを活動内容によって工夫しながら有効に活用されていると思う。	引き続き、お子様が安全に活動することが出来るように、工夫しながら取り組んでまいります。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	19	0	0	1		
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	10	3	4	3		
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※ i が作成されているか	19	0	0	1	入所の際に子どもについての細かなヒアリングや的確なアドバイスもいただけたと感じている。	引き続き、契約時や日頃のフィードバックに際して、丁寧な説明を心掛け、必要に応じて適切な助言ができるよう、指導員の資質の底上げに努めてまいります。
	5 活動プログラム※ ii が固定化しないよう工夫されているか	20	0	0	0		
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか		2	7	11		
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	20	0	0	0		
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができてきているか	19	0	0	1		
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	20	0	0	0	フィードバックの際には、保護者への助言や気持ちにも寄り添っていただけていると思う。	引き続き、保護者の気持ちにも寄り添いながら、丁寧な対応・丁寧な説明を心掛けてまいります。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	3	12	4	特に必要がないと思う。	必要性がある場合には、その都度検討してまいります。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6	1	2	11		
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	18	1	0	1		
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	13	3	0	4		
14 個人情報に十分注意しているか	17	0	0	3			
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	17	1	1	1		
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	20	0	0	0		
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	19	1	0	0	入所してまもないので、まだ緊張している姿も見られる。楽しみむまでには、もう少し時間が必要かなと思う。	引き続き、お子様に積極的にお声掛けを行って緊張をほぐしながら、安全に楽しく通所できる教室づくりに努めてまいります。
	18 事業所の支援に満足しているか	20	0	0	0	動きに細分化された指導がとても良いと思う。	引き続き、お子様様や保護者様に満足いただけるような支援を提供出来るように心掛けてまいります。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI登戸教室

※ i 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

※ ii 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障害特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。